

MOYO  
CHILDREN  
CENTRE

# モヨ通信 1号

発行人 / 松下照美 (モヨ・チルドレン・センター主宰) 編集責任者 / 加藤英子 2003年7月28日発行



**キリマンジャロ・トレッキング**  
 アルゼンチン / 2003/4 年末年始催行!  
 お問い合わせ: kato@nbnet.co.ke 担当: 加藤和也  
**VVM ベンチャー (K) Ltd.**

## 6年目、「風の便り」から「モヨ通信」へ

「モヨ通信1号」の準備をしていて、ふと6年前のことを思い出しました。1997年6月のことです。当時、2年あまり過ごしたウガンダからケニアに移り、英語を習いながらNGOとしての登録を模索していました。縁あって私がアフリカで暮らすようになって、そのときすでに3年近くが過ぎていました。ウガンダとともに暮らした、かつて路上を生活の場としていた子どもたちへの思いは心に残しつつ、改めてここで私を必要としてくれる子どもたちとともに暮らせる場を、NGOというかたちに求めていました。

その当時ただ一人であた度だけ出した通信が「風のたより-日本の皆様へ-」です。今、手もとにある1枚のコピーはこういう書き出しで始まっています。「その後、皆様如何お過ごしでしょうか?その節は本当にありがとうございました。いつも変らぬ暖かいお心遣い、心より感謝しています。今、慌しくすぎた日本での1ヶ月あまりを、お会いしたお一人お一人を、そして、日頃ごぶさたばかりしている方々を思い出しつつペンをとっています。」そして、その当時のナイロビの街の様子、手足に重い障害を持ちながらも、元気に路上で飴やたばこを売っていた少女の近況、当時住んでいたドンホームで遭遇したリン

チ事件のこと、顔なじみになり始めた20人ほどのストリートチルドレンと呼ばれていた子どもたちとの関わり等を記しています。最後は「何一つ具体的なものがなく、何もかもがこれからという今、お伝えできることも、とりとめのないものになりそうですが、とりあえずは、筆不精のわたしの、その上とりとめのないたよりをお届けすることから始めたい、と、これがその第一便です。名付けて『風のたより』。次便、いつお届け出来るか、心許ない限りですが、折々にとっています。ご一読ください。試行錯誤しながらの、遅々とした歩みですが、今後ともどうかよろしく、おつきあい下さいますように。」[追記]としてウガンダの子どもたちを再訪した時の彼等の近況を記しています。

縁あってウガンダに一步を踏み入れて9年、一回だけの通信「風のたより」をお届けして6年、「モヨ通信」と名付けて今改めて船出するこの通信は、私にとっては長い間をおいての「風のたより」第2便のような気がします。この9年間のこと、今のこと、これからのプラン、そして夢、この場を借りて折々にお伝えしたいと思います。次号は? 今回は何年もお待ちたせしません! もう独りではありませんから。

2003年7月 松下照美

### 青空床屋-子どもたちの散髪-

6月26日、松下さんは、ティカの町なかでよく会う路上生活の子どもたちの散髪をしました。場所はティカスタジアム(ティカ陸上競技場)の中



↑刈るほうも刈られるほうも真剣?

です。この日は10人程度の子どもたちが集まり、その中から髪が伸びている4人の子の毛を刈りました。

### レポート①: モヨの日常活動から

子どもたちは散髪がとても好きです。まだ伸びていない子からも「やってやって」とねだられていました。散髪を終えた子供たちの顔がさっぱりした表情に変わるのが見えて楽しいですね。また松下さんは、「散髪の最中は、子供たちとコミュニケーションが取り易いです。肌を触れ合いながら子供たちと交わす会話は、心が通じ合う貴重なひと時です。」と言っています。今後も不定期ながら、子どもたちの散髪は続けていくそうです。

取材: 浅村重臣

# モヨの学費支援プロジェクトについて

先日お届けした「モヨ通信創刊準備号」の〈支援している子どもたちの学校を視察に行きました。〉を読まれて疑問に思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。なかでも今まで小学生の学費支援をして下さっていた方々は「なぜ小学生の様子について1行も触れていないのだろう?」と感じられたのではないかと思います。ご報告が遅くなってしまいましたが、モヨ・チルドレン・センターは今年度から学費支援の対象を、特別な例を除いて、今までの小学生中心からセカンダリー、ハイスクールの生徒中心に切り替えました。何故そうすることにしたのか、以下がその理由です。

昨年末の総選挙で圧勝した新政権は、公約の一つの公立小学校無料化・義務化を、新学期から実施すると発表しました。その3日後の1月6日に始まった新学期は、混乱の中で始まりました。学費が続かなくてドロップアウトしていた子どもたち、学費が出せない保護者たちが始めた学校や小さなローカルNGOがやっていた無料あるいは低額ですむ学校に通っていた子どもたち、特に学校に行かせるのを諦めていた、スラムに住む新生児の保護者たちが子どもを連れて周辺公立小学校に殺到し、受け入れ準備の出来ていなかった学校側との間で衝突が起き、多くの学校が一時閉鎖するという事態が起きたからです。その後状況は少しずつ落ち着き、政府の動きも軌道にのり始め現在に到っています。

当モヨ・チルドレン・センターでも学費支援をしてきた27人の小学生たちにどう対処すべきか様子を

みていたのですが、子どもたちが通っている各学校の校長先生、管轄の教育委員とも協議の末、とりえず今年度は教科書を除いた支援はそのまま続けることにし、例年と同じく各学校ごとに子どもたちを連れての買い物を終えました。その後各関係者と協議を重ねた結果、学費支援の対象を特例を除き小学生から中・高生中心に切り替えることにしました。

尚、今年新たに加えた11人の子どもたち（創刊準備号でご報告）それぞれを支援して下さるというありがたいお申し出を、個人から、またある会社のグループから頂いており、うち幾人かはすでに支援を始めています。今後の支援体制については、今まで支援してきた小学生の内9人が来年に進学を控えていることもあり、今まで支援して下さった方々にご相談の上、検討していきたいと思っています。金額が大きいのでグループを組んで頂いたり、こちらで組ませて頂くという事も考えています。皆様のご協力を得て1人でも多くの子どもたちに進学のお機会を願っています。ご協力を心よりお待ちしております。

(松下)

## ■ケニアと日本の教育制度の比較

日本	ケニア	ケニアの学費
小学校(6年)	プライマリー スクール(8年)	今年1月より 無料化・義務化
中学校(3年)	セカンダリー スクール(4年)	年間3万5千から 4万8千円(公立)
高校(3年)		

## キャンジャウ小学校の保護者会に参加しました

7月10日、キャンデウテウ・スラムにあるキャンジャウ小学校の保護者会に、モヨの代表として松さんが出席しました。この学校は5年前に保護



↑ 熱心に話を聞く保護者たち

者たちが建て、その後、公立プライマリースクールとして認可されています。昨年末までは、学校が公立として認可されても政府から送られてくるのは教師のみで、校舎の建設費、学校の運営費、教科書代はすべて保護者負担でしたが、新政権に変わった今年の初めからは運営費、教科書代は政府から支給されることになりました。

3年前からこの学校とかかわりを持ち始めたモヨでは、これまでに教室と教科書を寄付してきました。昨年は新しいトイレを建設することになり、費 →

# 少年のようだったシラジ

21歳のときから合計6年間の支援

私が彼と初めて出会ったのは、9年近く前の1994年7月、初めてアフリカに、ウガンダに足を踏み入れた直後です。私は写真家のK氏に同行して、マサカという町を中心に活動していた日系NGOを訪ねました。そこでは当時2つのプロジェクトが始ま



↑マケレレ大学キャンパスで

子どもたちのための家の運営、あと1つは農村部での貧しい家庭の子ども、若者たちの自立のための職業訓練校でした。(このNGOで出会った子どもたちについてはまたの機会に改めてお

## ●シラジからの自己紹介文●

On 1st of June 1975, I was born a male Ugandan in a humble family (typically peasant) depending on the tills of the land. The death of my father at my tender age left the family in the hands of the mum. Special thanks to Mrs. Terumi for she has under Moyo Children Centre carried the mantle from secondary up to Mkerere University. Now with the first degree in Geography and Environment and as a teacher under training, I aspire to emancipate the disadvantaged young people in my capacity. I will live happily if my dreams come true. MATOVU Siraje.

1975年6月1日、私は、大地の収穫物に頼って生きる貧しい一家(典型的な小作農家)に生まれたウガンダ人男性です。私が幼い頃、父が死に、一家の生計はすべて母の手にゆだねられました。照美さんがセカンダリーからマケレレ大学までの支援をしてくれたことにはとても感謝しています。現在は、地理学と環境学の一級教職課程の実習中です。私は、恵まれない若者たちをその境遇から開放することに全力を尽くしたいと熱望しています。この夢が実現するならどんなに幸福でしょう。マトヴ・シラジ

私が出会った子どもたち①

Matovu Siraje マトヴ・シラジ

ウガンダ人・男性・28才

伝えます。)指折り数えてみるとシラジは当時19才、セカンダリーの3年生でした。(ウガンダでは小学校が7年、中・高校が6年、大学が3年、1年プラスすると高レベルの免許が取れます。)私がお世話になったそのNGOで休暇ごとにアルバイトをしながら学費を得ていました。いつも半ズボンをはいていた彼はまるで少年のように見えました。

2年後の1996年、私はケニアに移ったのですが、翌年人づてにそのNGOが殆ど機能していないと知らされ、子どもたちのその後が気になり様子を見にウガンダに行きました。その時シラジが元現地マネージャーだったWさんに連れられて、私が泊まっていた宿に会いに来ました。彼らの話によると、頑張ってみたけれどどうしても学費が調達出来ない、このままでは退学しかないというところまできているということでした。当時シラジは、セカンダリー最終学年の6年生になっていて、卒業だけはしたいという彼の必死の思いと、なんとかそうさせてやりたいというWさんのシラジを思う気持ちがひしひしと伝わってきました。とりあえずセカンダリーを卒業するまでということで個人的に学費支援を始めたのが、私にとっては学費支援第1号でした。その後日本のあるグループの方々ご支援も頂きマケレレ大学に入学、途中1年休学したものの4年間の学業を終え今年9月卒業予定です。19才で出会った彼は今、28才の若者、「これからは自分が子どもたちの役に立ちたい」という彼に大きな期待を寄せています。(松下)

→用の半分を保護者が負担し、残りの半分をモヨが寄付しました。ところが、その建設費がほかの経費に使われたり、予算オーバーしたりしてトイレ建設は途中でストップ、この度ようやく、タウン・カウンスルが引き継ぎ完成させることになりました。さて、この日の保護者会は、校長デビッド・ムザワさん、ティカの教育委員会からスクールアドバイザーのピーター・ンブルさん、保護者会代表のミハエル・クングさん、モヨから松下さん、保護者111名の出席で開かれました。議題の中心は教室建設でした。新政権による小学校の教育無料化・義務化

によってこの学校の1年生の数は激増し、現在は隣にある教会を借り、1年生155人を2教室で教えるている状態です。また、ここは新しい学校なのでまだ5年生までしかいませんが、来年は5年生が6年生に上がり、新しい1年生が入ってきます。緊急に2教室が必要です。会議の結果、ある保護者の提案で、保護者1人に付き100シリング(日本円で約160円)集めることになり、それを受けて、不足分はモヨが出すことになりました。もう一教室分については地区選出の国会議員より寄付があるという報告もありました。(取材:浅村)

モヨ通信創刊準備号をお届けしたあと、

皆さまからコメントをいただきました。

有難うございます。今後ともよろしくお願い致します。

■先日は冊子及び「モヨ通信創刊準備号」をお送りいただきありがとうございます。松下さんの活動がよくわかり、うれしく思いました。私もこどものために何かしたいと思います。 佐賀県伊万里市 中島明美様

■創刊準備号とのこと、興味深く読ませていただきました。遠く離れたウガンダの、雨季の間のウガンダ晴れを想像してみましたが、うっとうしい梅雨の真っ最中の日本では想像もできません。また、記事の内容だけではなく、きれいな色の切手に目を奪われました。日本のお茶摘みのような風景と、鳥ですね？皆様の健康とご活躍をお祈りしています。 P.S これからもモヨ通信を楽しみにしています。

新潟県村上市 佐々木綾子様

■モヨ通信創刊準備号拝受拝読。6/19・応援します。共感します。てるさんの感動の生き様に興奮します。青木さんありがとう。越後小国町 大久保茂様

## 松下照美 一時帰国のお知らせ

2003年8月4日～10月4日まで、モヨ・チルドレン・センター主宰・松下照美は日本に帰っております。この間、ひとりでも多くの方にお会いしたいと思いますので、ご都合がつかれる方は、日本支部・青木康子、または直接、松下までご連絡ください。

松下照美 TEL.090-2824-9261(携帯)  
E-mail:moyoteru@hotmail.com

### 皆さまの声をお寄せください

遠く離れたケニアと日本の情報の共有を目指してモヨ通信は発行されます。今後このモヨ通信が皆さまとの情報交換の場となれば、と考えています。ぜひ、ご意見、ご希望、ご質問、または日本での皆さまの活動など、なんでもお寄せください。

### 編集後記

◎一つだけでもアフリカから直接と、「創刊準備号」をケニアからお届けしました。多くの方々から励ましのお便りをいただき、勇気づけられています。今号は日本で発送しますが、次号からまたケニアからお届けします。(テル)  
◎寒さにやられて鼻かぜを引いてしまいました。(浅村)  
◎九州地方の水害のニュースをネットで見ました。その地域の方々、心よりお見舞い申し上げます。自然の猛威の恐ろしさは地球上どこにいてもあるものなのですね。(英)

### ケニア・ア・ラ・カルト② 言葉

ケニアでは、国語はスワヒリ語、公用語は英語と定められ、そのほかにマザータングと呼ばれる各部族語があります。モヨチルドレンセンターのあるティカはキクユ族の多い町で、日常会話に耳を済ませるとキクユ語の会話を聞くことが圧倒的に多くなります。ある日近所の店で、仕事帰り風のキクユ族の人と話していたとき、日本の文化などについてのいろいろな質問を受けました。その中で、「たとえばニエリ(ケニアの中北部の町)とナクル(ケニア西部の町)のキクユ語は違うけど日本でもそういうことはあるのか」という質問がありました。当たり前なことなのでしょうが、その時改めて「方言というものはケニアでもあるんだなあ」と感心しました。

### 会員制度の導入について

モヨ・チルドレン・センターが資金面で安定的に、かつ継続的に活動していけるように、『モヨの活動を支える会』の発足を予定しています。会の名称、年会費額、会則など詳細はこれから皆様のご意見を頂きながら、決めていこうと思っております。松下が日本に帰国した際に、どうぞ忌憚のないご意見を頂きたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。勿論、ケニアでご活躍の方々にも貴重なご意見を賜れば幸いです。

### 広告のご協力をお願い

モヨ・チルドレン・センターでは、モヨ通信の印刷代・郵送代をまかなうために広告主を募集します。何卒、よろしくご理解の上、ご協力をお願いいたします。モヨ通信に広告を掲載してくださる方は、モヨ・チルドレン・センター本部または日本支部までご連絡ください。

### モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月ケニア政府大統領府 NGO ビューローインターナショナル NGO 登録の申請書類提出。  
1999年9月 ケニア政府より、国際 NGO として「モヨ・ホーム」、正式に認可・登録される。  
2000年10月ティカにて、本格的に活動開始。  
2001年5月「モヨ・ホーム」から、「モヨ・チルドレン・センター」に改名。

### モヨ・チルドレン・センター

P.O.BOX 2712 THIKA KENYA  
TEL/FAX : 254(ケニアの国際番号)-067-22329  
E-MAIL : moyo@africaonline.co.ke  
ケニア政府 NGO 局登録番号 : OP.218/051/97223/1006  
日本連絡先 : モヨ・チルドレン・センター日本支部  
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1905  
青木康子 : TEL/FAX:044-433-3447  
寄付受付先 : 口座名称 : モヨ・チルドレン・センター  
口座番号 : 00230-4-71118(郵便振替)